

数値目標の進捗状況と今後の方向性について

基本方針	指標 (目標年度:平成32年度)	目標数値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
1 地域における スポーツ・レク リエーション活 動の振興	週1回以上スポーツをする 市民の割合	70%以上	46.8%	48.6%	47.2%	51.4%	51.5%	44.6%	67.1%	
	30分以上健康のために歩く 70歳以上の割合	男66% 女56%	男57.9% 女47.9%	—	—	—	—	男69.2% 女60.8%	男66.5% 女66.1%	
2 学校における 体育・スポー ツの充実	全国体力・運動能 力、運動習慣等調 査(高等学校は新 体力テスト)の結果 において広島市の 平均値が全国の値 以上となる種目の 割合	小学校	8種目中、 7種目以上	—	5.5種目	6種目	5種目	5.5種目	5.5種目	4種目
		中学校	9種目中、 7種目以上	—	5種目	6種目	5.5種目	7種目	5.5種目	6.5種目
		高等学校	9種目中、 7種目以上	5.3種目	5.5種目	5.3種目	5.8種目	4.7種目	3.3種目	3種目
3 競技力の向上	国民体育大会に出場する広島 県選手に占める広島市選手 (ふるさと選手を含む。)の割合	65%以上	47.7%	57.5%	55.5%	57.7%	54.6%	49.7%	52.4%	
4 まちの活力創 出に向けたス ポーツの振興	トップス広島に加盟するチーム の試合を年1回以上会場で観 戦した市民の割合	50%以上	37.2%	37.1%	37.0%	39.8%	41.7%	43.2%	43.8%	

現状分析と今後の方向性
<p>【現状分析】※詳細は別紙1(表1-1、1-2)のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度市民意識調査で「週1回以上スポーツを行う」と回答した市民の割合は67.1%(前年比+22.5%)であり、これは全国調査の数値51.5%(対前年比+9%)を大きく上回っている。 ○ 市民意識調査の結果を年代別に分析すると、別紙1表1-1のとおり、全世代の中で最も低いのは30歳代の約52%であり、最も高いのは10歳代の約82%である。 ○ 週1回未満の方のスポーツの実施を妨げている要因を年代別に分析すると、別紙1表1-2のとおり、全世代で共通して「時間が無い」が最も高く、続く要因が、10・20・30代では「興味が無い」、40・50代では「お金がかかる」、60代では「身近にスポーツする場所・施設がない」、70代では「興味が無い」と「一緒にする仲間がいない」となっている。 ○ スポーツ実施率が上昇した要因として、スポーツによる健康増進の効果が少しずつ浸透している中、広島東洋カープを始めとするトップアスリートの活躍や、東京2020オリンピック関連イベントの開催により、市民のスポーツに対する関心が高まったことなどが考えられる。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくりを進めるとともに、広報紙等を活用して、既存の生活スタイルの中にスポーツを取り込み、習慣化するきっかけづくりに取り組む必要がある。 ○ 特に、仕事や育児が忙しい30代から40代の人に対し、ライフスタイルに合わせて気軽にスポーツに参加できる機会の増加に向けて取り組む必要がある。
<p>【現状分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校では、全国体力等調査において、前年比で全国平均値を上回る種目が減少しており、数値目標を達成することはできなかった。 ○ 中学校では、全国体力等調査において、前年比で全国平均値を上回る種目が増加したが、数値目標を達成することはできなかった。 ○ 高等学校では、新体力テストにおいて、全国平均値を上回る種目数が下降傾向にあり、数値目標を達成することはできなかった。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校においては、教員を対象とした実技研修会等の実施や、体力向上推進校の指定等、引き続き、体力向上に向けた施策に取り組む必要がある。 ○ 高等学校においては、各学校の課題やその解決に向けた取組を明確にするために、体力向上推進計画を立てるなどして、組織的かつ計画的な取組を進めていく必要がある。
<p>【現状分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度の広島市選手の割合は52.4%で、前年比2.7%上昇している。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今まで以上に広島県の取組と連携を深め、ジュニア選手の発掘・育成を推進するとともに、ジュニア選手医科学サポートを積極的に活用し、国体出場選手に対するサポート体制を強化する必要がある。
<p>【現状分析】※詳細は別紙1(表2)のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観戦率は年々上昇傾向にあり、特に女性の観戦率が、別紙1表2のとおり、約3%上昇している。なお、平成29年度は、過去7年間の市民意識調査における最高値である。 ○ また、年代別に分析すると、70歳代が全世代の中で最も低く、約34%であり、40歳代が全世代の中で最も高く、約54%である。 ○ チーム別では、カープが41.7%で最も高く、次にサンフレッチェが6.7%、JTが1.7%と続いている。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック関連事業や国際大会の開催・誘致などにより、市民のスポーツに対する関心を高めるとともに、カープとサンフレ以外のトップス広島加盟チームの試合観戦を促進する取組を進める必要がある。